



# 高P連だより

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番 第二北海道通信ビル8F  
TEL (011) 232-0007 FAX (011) 232-0006  
URL: <http://www.hokkaido-koupren.com/>

## 今号の内容

- ▶ シリーズ北の志  
・帯広南商業高等学校
- ▶ 全国大会分科会発表
- ▶ 定通生活体験発表大会
- ▶ 交通安全標語・ポスター入選作
- ▶ 支部だより「胆振・日高」
- ▶ 高P連全国・全道大会要項(案)

## Heart to Heart 北の志

— ひたむきに頑張る君たちを応援したい —

第3弾

まだまだあるぞ  
甲子園

野球だけじゃない、いろいろな甲子園を探して  
そこで活躍するどさんこ高校生たちを紹介します。

全国高等学校写真選手権大会(愛称:写真甲子園、略称:写真)は平成6年から、写真を通して多くの人と出会い、今後の高校生活に生かすことを目的に、写真の町・東川町で開催され、昨年で節目となる20回目を迎えました。

写真甲子園は初戦とよばれる4~8枚の組写真の制作から始まります。テーマは自由ですが、これが逆に難しいところでもあります。まずは何を撮るかの話し合いから始まり、撮影時にはカメラ係の他にモデル・照明・小道具といった役割分担があり、写真ができたらどれを使うか選び出す。すべてが共同作業です。私は「写真は個人でやるものだ」と思っていました。写真甲子園を目標とした部員たちの姿を見て、チームでも写真ができることを知りました。そして、それは高校生の時にしかできないことでもあると思いました。初戦の締め切りは6月上旬で、その後審査が

## チームで写真! 「写真甲子園」

北海道帯広南商業高等学校 写真部顧問 教諭 清水 孝



行われ、本戦出場校が選抜されます。初戦応募校数は年々増え続け、昨年は全国で過去最高の522校(北海道からは45校)でした。本校は6年連続の本戦出場が決まり、「やったー」と喜ぶ一方、本戦に挑む3年生、後に続く2年生それぞれに新たなプレッシャーが与えられました。

本戦出場となった全国20校のメンバー(選手3名、

監督1名)は8月5日から11日までの1週間、東川で生活を共にします。『写真甲子園は、始まって10分後に「来るんじゃないか」って後悔し、終わって10分後に「また来たい!」と強く思う不思議な大会です』これはある先生の名言で、写真甲子園の本戦をズバリ表現しています。東川に到着して、まず宿舎周辺の「大自然」に圧倒されます。そ

して、初対面の他校選手との妙な緊張感の中オリエンテーションが行われ、時間的にも体力的にもハードなスケジュールを知らされます。もう帰りたい...となっ

てしまわないかと心配な1日目です。

しかし翌日、東川の子供たちに囲まれて開会式が始まり、1泊のホームステイでは短い時間ながら楽しく過ごすことができ、食事も東川のお母さんたちが作ってくれたりして、東川町全体が写真甲子園を応援してくれていることを肌で感じることになります。また、



大会中は、近隣の高校生がサポーター役を務めたり、写真甲子園OB・OGがスタッフとして運営にあたるなど多くのボランティアに支えられていて、厳しい中にも温かみがあり、選手の不安は徐々に薄れていきます。

そしていよいよ3日間の撮影ステージが始まります。撮影時間・カメラ機材・パソコンなどは全て同一条件下で、指定された場所で撮影を行い、8枚の組写真を制作します。毎日、計3回の公開審査会が行われ、それぞれ与えられたテーマ「昨年は「自然」「人間」「風土」に沿った作品を発表し、「心」「テーマ性・着想力」「技術力・構図力」「眼」「表現力・独創力」の3つの観点で採点され、その合計得点により優勝を目指します。

本戦中は、監督の私はカメラに触れることはもちろん画面を覗くこともできず、ただ選手の様子を見守るだけです。撮影後は約2時間のセレクト作業となり、監督はこれまで別室で待機となります。何が撮れているのか、どんな作品に仕上がるのか…と気を揉む中、中間の20分だけ入室・アドバイスが許され、そこで初めて作品と対面して「おお、すごい!」「あら、うー」と一喜一憂します。この3日間は予想通り過酷でしたが、町に出れば撮影に快く協力してくれたり、急な雨にあたっては傘を貸してくれたりのお母さんが心を貸してくれたり、ホストファミリーの方が審査会に足を運んでくれたりして、感「写」の中戦い抜くことができました。さらに、選手は力を

出し切ったぶん、大きな経験と感動を得ることができたと思います。

また、写真甲子園は「競争が入口でも、出口を感動に」が合言葉で、閉会式後には選手同士が交流できる時間をしっかりと用意してくれています。お互いのTシャツに書き込みを交わしたりするなど、過酷な大会を共にしてきた仲間との大きな思い出ができ、選手にとって最高の夏となりました。

そういうわけで、大会終了の頃には写真甲子園が大好きになってしまい「また来たい!」と思ってしまうのです。

さらに、大会終了後も出場校どうしのつながりが強いのも写真甲子園のすごいところ。顕著なところ



では2年ほど前に始まった「高校写真部による東日本大震災復興支援プロジェクト」です。これは被災地へ写真で応援メッセージを送り、被災地からは同じく写真で返事メッセージを返すというもので、写真甲子園参加校を中心に全国各地で大きな輪が広がりました。

昨年の本戦では、第3位にあたる優秀賞と、東川町民が選ぶ特別賞をいただきました。私は「よくやった!」と満足でしたが選手は悔しかったようで、これもひとつの成長なのだと思います。

これからも、写真甲子園本戦出場(できれば優勝...)を目指して活動していきます。

## ＜その他の〇〇甲子園と道内高校生の活躍＞

大会名	部門	学校名・受賞団体個人	成績
第13回ものづくり甲子園	電気系_電気回路組立部門	札幌国際情報高等学校 数田 直之さん	優勝
第22回書の甲子園	団体賞	札幌北高等学校	全国準優勝
		富良野高等学校	地区準優勝
	個人賞	札幌北高等学校 片寄菜々美さん	文部科学大臣賞
		富良野高等学校 直原 瑞佳さん	大賞
		〃 増田 小夏さん	大賞
		北広島高等学校 五十嵐柚季さん	大賞
		札幌拓北高等学校 星川 遥香さん	大賞
第17回俳句甲子園		旭川東高等学校	予選リーグ
第22回まんが甲子園		札幌あすかぜ高等学校 札幌啓北商業高等学校 帯広南商業高等学校	第一次競技

※〇〇甲子園とは一高校生の全国大会の代名詞ともいえる「甲子園」の名を冠した大会のこと

## いろいろな甲子園を探して

今年度「北の志」では、「まだまだあるぞ 甲子園」と題して、野球以外の「〇〇甲子園」に出場した高校生たちを紹介してきました。調べてみると、歴史のあるもの、最近始まったもの、主催者が企業であるもの、自治体であるものなど、数々の「〇〇甲子園」がありました。そのすべてを紹介できなかったのは残念ですが、野球の甲子園同様、熱いドラマと日々の地道な活動があることを知ることができ、ますます、高校生たちを応援したくなりました。



# 第63回全国高等学校PTA連合会大会 山口大会に参加して

北海道知内高等学校父母と教師の会会長 山田 麻利子



8月20日から23日までの3泊4日の日程で全国高P連大会山口大会に本校の廣田校長先生と参加して参りました。高P連の全国大会に参加するのは初めてで、しかも分科会で発表するというのもあって、あまり人前で発表することに慣れていない私は行く前から大変緊張していました。さらに、驚いたのは山口の暑さで、知内を出発するときに十分に暑かったのですが、空港に到着したときの日差しは強さと暑さは想像以上で、大会当日まで体調を維持できるか不安になりました。

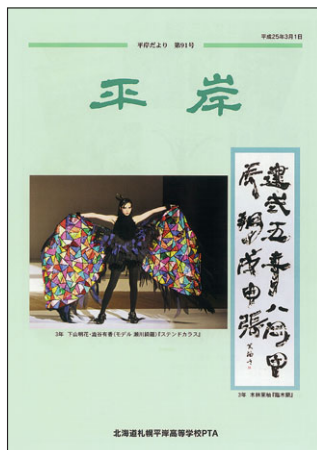


前日の21日午後からは分科会の会議とリハーサルが行われ、ここで初めてこの大会の参加者が約1万人いて、そのうち私の発表する第4分科会には、約1200人の参加があることを知りました。このお陰でリハーサルは一層緊張してしまい、何が何だか分からないうちに終わりました。しかし、その後のレセプションでは、多くの参加者が集まり、聞き慣れない言葉が飛び交い「本当に全国から色々な人たちが集まっているのだな」と感じ、少し気持ちが楽になりました。

大会当日の22日は朝から開会式・基調講演・昼食・記念講演と慌ただしく続き、午後2時過ぎから第4分科会が始まりました。私は「地域全体で行う学校教育の在り方」というテーマで、知内町が行っている幼小・中・高の連携と学校や家庭、地域の連携による事業についての発表を行いました。予想通り緊張してしまい、終わってから、もの凄く反省したのだけは覚えてます。しかし、東京・和歌山・愛媛など他府県の発表は、それぞれの内容が楽しく、とても興味深かったことはよく覚えてます。特に東京の発表の中で「子供達に向けてする質問は、テクニクではなく相手を想う気持ちが最重要であり、答えは子どもの心の中にある」という言葉があり、とても感銘しました。また、「自分がそんな風に見えるのだろうか。」これまでは、きっと目先にあるものや形のあつものに目が行ってしまいい、子どもの心を見過してきたのだと実感しました。ですから子どもがもう少し小さい頃にこの話を聞けたら良かったと思います。分科会の発表の後、質疑応答があり、続いて助言者の先生からの助言をいただきました。その話の中で「こういう大会に子どもも達も参加させた方がいいと思う。親がどんなに子どものことを考えているのかを子どもにも知ってもらうことが大切です。」という話が印象的でした。



## 広報誌 山口大会にて紹介されました



札幌平岸高校



釧路北陽高校

す。分科会も講演会も大変参考になりましたが、せっかく宇部まで来たのだから、地元の子どもたちを見る場面があればもっと良かったと思います。こうして全国大会の1日が無事に終わりました。

この大会に参加して、全国のPTAの皆さんが「いかに子供達のために頑張っているのか」ということがよく分かりました。また、発表や講演以外でもお手伝いをしてくれていた保護者のみなさんと話をする時間があつた。私も、楽しんで交流することも出来ました。私のPTA活動はもう残りわずかになりましたが、全国各地で頑張っている保護者のみなさんからいただいたパワーを知内に帰って地元のみなさんに少しでも還元できたら良いと考えています。最後になりますが、このように大きな全国大会に参加させていただき、貴重な体験をさせて頂いたことに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

## 第57回道高校定通生徒生活体験発表大会

## その先にみえるもの

北海道札幌琴似工業高等学校 三年 三 木 夏 恵



のです。どう答えていいかわからず、ただ下を向いていました。怖い、今までと全く違うクラスメイトに、私はとても不安を感じました。いつもジロジロ見られている。時々話しかけてくれる人はいましたが毎日緊張の連続でした。

そんなある日、図工の時間、私は彫刻を一生懸命彫っていました。すると、いつの間にか沢山の人が私をみて笑い出したのです。恥ずかしさ、悔しさで胸が押しつぶされそうでした。

翌日、親に心配をかけたまがら登校しました。すると「きもい、養護」他のクラス

の生徒まで覗きにきて、もう誰も話しかけてくれません。そんな日々が2週間ほど続いて、とうとう私は

布団から起き上がる事ができなくなつたのです。全部この手のせい、私は普通

じゃない。自分を嫌い親を恨みました。

中学は養護学校に行くことになり、そこには私より重い障がいの人がたくさんいて、もう私をいじめる人はいません。でも、高校は

普通の学校に戻りたい、資格をとれる学校がいいと、え、札幌琴似工業高校定時

制電気科を受験しました。いざ入学してみると、電

気工事の実習は堅い電線をペンチで切ったり、ねじったり、細かい手作業が多く、私は力が入らず上手くいきません。先生方は親切に指導してくれ「時間がかかってもいいからやり遂げよう」と声をかけてくれましたが、周りは男子ばかりで、誰とも話せず、工業高校は私には無理だったのかな、とあきらめかけていました。

そんな時、演劇部に誘われ入部。いきなり6月に行われた震災復興支援のお芝居に出演したので、人前で話すことが大の苦手だった私が、舞台に立つて演技

をしている。緊張の中、舞台が終わった瞬間大きな拍手。「あなたの演技に泣か

されたよ」「感動したよ」と声をかけ手を握ってくれたお客さんを見て、私は胸

が震え、涙が止まりませんでした。

先輩たちは優しく、ありのままの私を受け入れてくれ、自分たちも中学校時代

は不登校だったけど、定時制は変われるとこだと励ましてくれました。

人の目ばかり気にしていた私が大きな声で話し、笑いあえる居場所を見つけたのです。その頃、全校生徒がコミュニケーションにつ

て、演劇部は全員役者として参加。でも、そこには演劇部の先輩とは違う茶髪でピアス、怖そうな人がたくさんいました。

私はまた下を向く癖が出ます。怖そうな人や知らない人とは目を合わせないよう

にするのです。ところが、その怖そうな人たちは、演

出の厳しい注文に文句も言わず、何度も同じシーンを

取り直し、議論をしています。映画を完成させるために

に真剣に取り組む先輩たちの姿を目の当たりにして、

見た目で人を決めつけ、怖がつていた自分を恥じまし

た。

そう、私はいつでも、自分に自信が持てず、こう

なつたのは右手のせい、自分を守るために、いつも前

髪で顔を隠し、下を向いていました。その姿勢こそが、人を拒絶し、世界を狭くしていたと気づいたのです。それに気づくと不思議なもので何にでもチャレンジしようという気持ちになり、生徒会にも立候補、荷物の仕分け積み込み作業のアルバイトも始めました。厳しい仕事で荷物を落とす何度も注意されましたが、今では職場の方たちとも楽しく仕事をしています。



様々な工夫をし、配線の実習作品を完成させることができました。危険物取扱者資格試験も合格し、次は電気工事士の資格も取りたいと思っています。手の不自由な私が手に職をつける。もちろん出来ないことも沢山あります。でも、人の偉業努力して、出来ることを少しでも増やしたい。障がいと言いつつ、何があっても諦めない強い気持を持ち続けようと思います。

琴似工業高校定時制で学んだ人と繋がる喜び、繋げようとする気持ちを様々な

場面で見出し、自分の人生を精一杯生きたいと思いま

す。小学6年の私に、今なら言えます。あなたは一人

じゃないよ、困難を笑顔で乗り越えたら、その先には必ず光が見えてくる！

文部科学大臣賞



全国の定時制高校や通信制高校の生徒たちが自らの体験を元に意見を述べあう第61回生活体験発表大会の全国大会が11月24日(日)に東京六本木ヒルズで開催されました。北海道代表で出場した本校の電気科3年三木夏恵さんが最優秀に相当する文部科学大臣賞に輝きました。

三木さんは資格を取りたいと本校定時制の電気科に入学し、演劇部に入部。自主制作映画「ハッピーミラクルコミュニケーション」の制作にも参加し、自分の殻を打ち破ることに成功。仕事との両立をし、生徒会副会長、演劇部副部長も務めるなど、何事にも積極的になった自分の体験を「その先にあるもの」と題して発表しました。

発表の中では「琴似工業高校定時制で学んだ人と繋がる喜び、繋げようとする気持ち」を様々な場面で発揮し、自分の人生を精一杯生きたいと思



高校生



# 交通安全標語・ポスター入選作

(高等学校長協会提供)

## 交通事故死ゼロをめざして

北海道高等学校長協会会長 山本伸弘

昨年の北海道における交通事故発生件数は14,973件で前年度より1,422件減少しましたが、スピードの出し過ぎやスリップによる交通事故が重なり、犠牲者は前年の190人より10人多い200人でした。交通事故による死者数がピークであった昭和46年の889人と比べると4分の1まで減少はしているものの、依然かけがえない生命が失われたり、負傷を余儀なくされたりする方が後を絶たない状況に大変心が痛みます。

今年も交通安全関係諸団体が一体となり、「ストップ・ザ・交通事故死」をテーマに、安全で安心な北海道を「スローガンに、交通事故防止活動に取り組んでいます。しかしながら、交通事故を減少させようと思っても、高齢者並びに高校生を含む若年者の交通事故の痛ましいニュースが続いています。

こうした中、本協会では、調査研究部交通安全小委員会が中心となり、高校生が自らの命と他者の命を大切にする交通マナーを身に付け、交通事故の危険に対す

## ポスターの部

最優秀賞

釧路明輝高等学校  
3年5組栗山高等学校  
2年 香川 幸奈森高等学校  
3年 三国 由利江森高等学校  
3年 工藤 志 敏大森高等学校  
2年 谷内 海 帆札幌北陵高等学校  
1年 合田 果 帆

## 標語の部

最優秀賞

◆ 交差点 譲る勇気と 待つゆとり

深川西高等学校 1年 北井里実

優秀賞

◆ 「ただいま」を 伝えるまでが 帰り道

置戸高等学校 3年 渡邊 咲

◆ 止まる見る 待つ習慣が 身を守る

深川西高等学校 2年 明瀬 尚哉

◆ 運転中 にぎる携帯 消える視野

帯広北高等学校 2年 宮原 勇哉

◆ 広げよう ゆとりと視野と 車間距離

森高等学校 3年 藤田 雅也

◆ 消さないで まわりの笑顔と あなたの未来

大森高等学校 2年 吉田 愛

佳作

◆ 片手では 支えきれない その命

置戸高等学校 2年 佐藤 尚太郎

◆ 自転車の key を抜くまで 気を抜くな

帯広工業高等学校 1年 須藤 大輝

◆ 「いつてきます」笑顔で「ただいま」いつまでも

下川商業高等学校 2年 鈴木 涼

◆ 二人乗り するより二人で 歩こうよ

砂川高等学校 3年 清水 郁李

◆ 守ってく その子の未来 全員で

美唄聖華高等学校 2年 熊谷 葵

◆ 二人乗り それより君と 歩きたい

釧路明輝高等学校 3年 阿部 優花

◆ 家で待つ 家族を想う 帰り道

留萌千望高等学校 2年 金廣 優希

## 第二回理事会報告

日時 平成26年2月15日  
場所 札幌全日空ホテル  
出席者 役員・理事 30名

## 審議事項

## 一 新安全互助会(仮称)についての提案

## ●提案理由等説明(局長)

11月に開催された臨時理事会審議の確認と支部事務局長会議を経たその後の経緯を説明し、新たに①文科省の指導を受け、安全互助会設立に向けて、準備・事務作業を開始する。②主に安全互助会事務のため、事務局員を4月から2名増員する。③法人格取得と安全互助会のスムーズな立ち上げのため、元十勝支部長の竹川博之の公認会計士に依頼する。以上3点を提案。

## ●提案説明後、理事から質問や意見があった。

## ★質問・意見の一部

★質問には村上副会長と局長が対応

★説明文の「学校単位、個人任意」の表現は分かりにくい。また、「学校を窓口として」という表現は如何なものか。「学校がとりまとして名簿を作成して」という考え方で良いか。

★誤解のない分かりやすい表現にしたい

★互助会で災害補償と賠償責任保険を兼ねるようなものではないか。

★同じように考え、すでに文科省に問い合わせたが、法律の主旨からして、それはできない」との回答があった。

★学校によっては、安全互助会が平成26年度から開始されるといふ誤解がある。平成27年度から始められるように準備中であることを周知すべきではないか。

★現在、道高P連で扱っている複数の保険制度の違いが分かりにくい。

★自らのケガや疾病に備えた保険、他人への賠償責任に備えた保険など様々だが、安全互助会を正確に認識していただける資料と説明に心がけたい。

★新安全互助会設立検討について管内21校にアンケートした。回答率は70%で、回答した14校中11校が賛同、3校が「疑問がある」、「分からない」であった。意見等として「任意なら加入のとりまとめは誰がするのか」、「民間の保険に入っているのに自由はない」等であった。

★支部長校が資料を説明するのは難しい。

★10月に予定されている設立総会の後、事務局員が各支部等に出かけて説明するが、分かりやすいパンフレットを作成する。

★校内の担当者は、各学校が役割分担をした中で決めたことであり、それが養教の仕事かどうかには、様々な論議と経緯がある。また、センターと学校の連携も変化し、養教が給付の流れ等を職務上知り得ているかは疑問だ。更に、生徒の怪我や疾病に関わるのは養教だから養教が担当者だというのは説明できない。

★安全互助会そのものは高額の医療費、大きな怪我や歯への対応など、個人負担が大きいものには手厚く、一日通院すれば

五百円という今の制度よりも優しく温かいものだと思う。ただ、それを誰が担当するかは各学校で決めることであり、説明の際、誤解を与えないようお願いしたい。

★道高P連の災害補償制度等では主に養護の先生にご担当いただいている」と表現しましたが、それは、単純に現状をお話しただけであり、それ以上の意味はありません。各学校での様々な状況は十分承知していますし、担当者は各学校で決めることです。誤解を招く表現であれば、お詫びします。

また、安全互助会については、まさにその通りで、今後も共済の原点である「相互扶助」の精神を大切に説明したい。

★高校生と語るつどいなど、これを機に事業の見直しをお願いする。

★26年度は計画通りとするが、委員会で審議し、後日、理事会に縮小する方向で提案したい。

●3点の提案が承認。

## 二 会則等改正の提案

●組織等検討特別委員会委員長村上副会長から提案理由の説明。

①会則の「会長代行」の文言を削除

※平成22年度、道の会長が全国の会長と兼務したことに対応した規定であり、一年後に解消した。現在本来的な意味での会長代行が機能しているの混乱のもとだ。解消したい。

②正副会長会議の明文文化

・正副会長会議を会則第22条として定める。  
・正副会長会議を会則施行細則第26条として定める。  
※常任理事会を頻繁に開催できないため、これまで、常任理

事会の主な理事である正副会長と事務局長が会議を開き対応してきた。実態を反映させた会則・会則施行細則とした。

③教育懇談会の明文文化

会則施行細則第31条として定めたい。

④旅費規程の改正

・一部文言を訂正し、改正後の会則施行細則第33条とする。

※③④とも実態を反映させた会則施行細則とした。

※承認されれば、会則改正は総会に提案し、会則施行細則は即日改正となる。

●異論なく提案が承認。

※承認後、山本富造・村上副会長・事務局員が副会長4名体制の見直しの必要性を説明し、会則第7条の文言「理事・若干名」の表現の見直しを含め検討し、次回理事会に提案したいとの発言があった。

## 三 各種ローテーション

四 平成26年度道高P連事業日程

五 全道大会について

①後志大会(平26)

②北見大会(平27)

③大会主題・要旨の更新

六 平成26年度道高P連暫定予算

七 平成26年度役員選考委員会委員選出

※「審議事項」三〇七まで異論なく承認。

※報告事項、その他は省略

北海道高等学校PTA連合会は、高校生のための「災害補償制度」を主催しています。

## 事故報告

平成23年4月1日～平成25年9月30日受付分

骨折	661件	炎症	30件
捻挫	496件	腱挫傷	13件
靱帯損傷	309件	突き指	14件
打撲	128件	その他	10件
脱臼	100件	欠損	6件
筋挫傷	83件	特定疾病	6件
挫創	74件	脳挫傷	4件
関節挫傷	71件	熱傷	4件
半月板損傷	63件	死亡	1件
切創	54件	内臓挫傷	1件
ヘルニア	46件		

私にジャストフィットする保険を選ぶなら

いろいろなかたちの「安心」があるエース保険。

いつでも、どこでも、今日も、未来も。どんな人にもぴったりの「安心」と「満足」を、エース保険が提供いたします。



エース保険  
ace Insurance



## 支部だより

振部  
胆支

## 子どもたちのためになるPTA活動を目標して

北海道高等学校PTA連合会 胆振支部長 谷 藤 豊  
(北海道室蘭東翔高等学校PTA会長)

胆振支部は現在22校、24の単Pが加盟しています。

6月8日(土)支部総会を実施し、53名の参加で盛会に開催され、昨年度の事業報告・決算、新年度の新役員、事業計画、予算案などを承認していただきました。またその後の懇親会では、各校のPTA行事の取り組みについて発表しあい、これからの自校のPTA活動の参考となりました。

6月14日(金)、15日(土)開催の全道高P連釧路・根室大会、山口県で開催された全国大会(8月21日(水)、22日(木))の参加では、各高校がそれぞれの分科会に参加をし、各校の現状を報告すると同時に、懇親を深めてきました。

11月23日(土)には高P連健全育成事業(安全対策研修会)を室蘭市文化センターで開催しました。開善塾教育相談研究所所長であります、金澤純三氏を講師に迎え、「やる気を育てる」引きこもり家庭への訪問相談から」という題目で、60名の参加者を前に講演をいただきました。

金澤先生は、行動療法的アプローチを主として、多くの児童生徒の不登校を実現させてきました。この講演をおして大人がどのような考えを持ち、対応すべきかを考える場となりました。

参加者からも、「普段の生活では気づけない子供の接し方の改善点を見つづけることができた」「日ごろの自分の子どもへの接し方で間違いがたさんあって、今気づけて良かった」「親である自分がしっかりしなければならぬ。自分を振り返る良い機会になった」「家が厳しく、学校が優しくければ学校に行く。必ずどこかに解決の糸口がある」など不登校の子どもへの対応などに理解を深めることができた意見が多



数寄せられました。昨年、今年と二年間事務局校として高P連のご支援を頂きながら子どもたちの成長の一助となるPTA活動を目指してまいりました。これからは皆様のご協力を得ながら、子どもたちのための活動を行って参りたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

高部  
日支

## 日高支部より

北海道高等学校PTA連合会 日高支部長 武田 修一  
(北海道静内高等学校PTA会長)

日高支部は、現在8校8単Pで構成されていましたが、平成26年度に様似高等学校が閉校となり、7校7単Pとなります。支部事務局は平成24・25年度は静内高等学校が担当し、平成26・27年度は浦河高等学校が担当することとなります。

平成25年度は、5月27日(月)に静内高等学校会議室を会場として、支部役員総会並びに第1回研修会を開催いたしました。総会では予定されていた議事もスムーズに承認され、研修会では各単Pでの活動報告がなされました。

今年度は、8月2日(金)・3日(土)に「高校生と語るつどい」を新ひだか町静内にあるホテルローレルを会場に開催いたしました。馬産地日高ならではの乗馬体験も組み入れ、新ひだか町総務企画部企画課長 岩淵 博司様を講師に「日高の将来像」と題してご講演をいただき、分科会で生徒・保護者・教員が一組5グループに分かれて意見交換を行い、全体会で各グループでの意見内容を発表し、

まとめとして道高P連副会長 村上 義人様に締めくくっていただきました。

8月21日(水)・22日(木)に山口県山口市の山口県スポーツ文化センターを主会場に開催されました「第63回全国高等学校PTA連合会大会山口大会」に支部代表として参加し、高P連だよりNo.129号に全国大会参加報告をいたしました。

12月14日(土)に第2回研修会を新ひだか町福祉教育推進協議会との共催で、新ひだか町公民館にて開催いたしました。「子どもの命を未来へつなぐために、私たちができること」と題して、一般社団法人 Wellbe Design 理事長 篠原 辰二様に、災害時、学校や公共機関が避難所となることを想定した「避難所運営ゲーム(HUG)」を通して、子どもたちを取り巻く環境や、複合的な課題へ



のアプローチを複合的な視点を基に考える内容のご講演をいただきました。

本年度をもちまして、日高支部事務局校としての二年間が終了いたします。支部の事業を運営するにあたり、管内各単Pの皆様のご協力と道高P連のご支援により、無事終了することができましたことを心よりお礼を申し上げ、日高支部からの報告とさせていただきます。

## 第64回 全国高等学校PTA連合会大会 福井大会要項(案)

### 【大会趣旨】より抜粋

いつの時代も、子どもたちの健やかな成長と幸福を願う親の思いは皆同じです。そんな親の愛情を幹に、子ども自身の「生きる力」が枝葉となり、「しあわせ」の花を咲かせるのです。

第64回福井大会は、『教育と考福』をテーマに掲げ、子どもたちの「しあわせ」について考えます。「学校」「家庭」「地域」「社会」が、それぞれの役割を見つめ直し共に学び連携して、PTA活動の更なる深化を目指す大会とします。全ては子どもたちの幸福のために…。

### 大会テーマ

## 『教育と考福』

### サブテーマ

～ 未来に引き継ぐ 知と恵み ～



● 日 時 平成26年8月22日(金)・23日(土)

### 大会第1日 開会式、全体会

(主) サンドーム福井  
(副) 福井フェニックスプラザ  
(副) 敦賀市民文化センター

次 第	時 間	出 席 者
受 付	8:00～	
アトラクション	9:00～9:30	
開 会 式	9:40～10:30	司会： 福井大会副実行委員長
① 開式の辞		
② 国歌斉唱		
③ 実行委員長開会の挨拶		福井大会実行委員長
④ 大会会長式辞		(一社)全国高等学校PTA連合会会長
⑤ 来賓祝辞		文部科学省 福井県知事 等
⑥ 来賓紹介		福井大会副実行委員長
⑦ 表 彰 式		(一社)全国高等学校PTA連合会会長、受賞者
⑧ 閉式の辞		福井大会副実行委員長
基調講演	10:40～11:50	講師未定
昼食・分科会会場へ移動		

### 大会第1日 分科会

7会場

受 付	13:30～14:00	
分 科 会	14:00～16:30	
① 全国高P連研究発表		●進路対策に係る研究発表 サンドーム福井
② 第1分科会		●学校教育とPTA ハーモニーホールふくい(福井県立音楽堂)
③ 第2分科会		●進路指導とPTA 越前市文化センター
④ 第3分科会		●生徒指導とPTA 福井フェニックスプラザ
⑤ 第4分科会		●家庭教育とPTA 敦賀きらめきみなと館
⑥ 特別第1分科会		●福井県高等学校PTA連合会による独自テーマ 鯖江市文化センター
⑦ 特別第2分科会		●福井県高等学校PTA連合会による独自テーマ 敦賀市民文化センター

### 大会第2日 全体会、閉会式

サンドーム福井

次 第	時 間	出 席 者
受 付	8:30～	
アトラクション	9:00～9:50	
記念講演	10:00～11:10	講師未定
閉 会 式	11:20～12:00	

## 第64回 北海道高等学校PTA連合会大会後志大会要項(案)

- 主 催 北海道高等学校PTA連合会
- 主 管 北海道高等学校PTA連合会 後志支部
- 後 援 北海道教育委員会 小樽市 小樽市教育委員会  
北海道高等学校長協会
- 日 時 平成26年6月14日(土)・15日(日)

日	内 容	時 間	会 場
14日 (土)	道高P連総会	10:00～12:00	グランドパーク小樽
	受 付	12:30～13:30	
	開会式・表彰式	13:30～14:30	
	講 演	14:50～16:20	
	懇親会	17:30～18:00	
15日 (日)	懇親会	18:00～19:30	北海道小樽潮陵高等学校 北海道小樽水産高等学校
	受 付	9:00～9:30	
	分 科 会	9:30～12:00	

### 会 場

グランドパーク小樽

小樽市築港11番3号 TEL: 0134-21-3422

北海道小樽潮陵高等学校

小樽市潮見台2丁目 TEL: 0134-22-0754

北海道小樽水産高等学校

小樽市若竹町9番1号 TEL: 0134-23-0670

### ● 大会メッセージ(案)

後志の山々と紺碧の海 世界に名を馳せる雄大な自然の中で  
北海道の経済発展を切り拓いた伝統ある港町 この小樽で  
全道のPTAの絆を深め 未来に向けたビジョンを語りましょう。

### ● 分科会構成と研究協議

分科会(2会場で36の分科会を設定)

### ● 講 演

講 師(案) ㈱ニセコアドベンチャーセンター代表  
ロス・フィンドレー 様

- 費 用 参加料 4,000円 懇親会 5,000円  
集録代 1,000円

### ● 申込締切 平成26年4月末日(予定)

- 事 務 局 北海道小樽水産高等学校内  
第64回北海道高等学校PTA連合会大会  
後志大会 事務局  
〒047-0001 小樽市若竹町9番1号  
TEL 0134-23-0670  
FAX 0134-23-4553

### 編集後記

広報特別委員会では、山本委員長と四名の女性委員が、わかりやすさと美しさを求め、ワイワイガヤガヤ編集会議を重ねてきました。締め切り間際には頻りにメールでやり取りをし、それを、菅野副委員長がまとめるという連係プレーもどんどん湧いていきました。本当に楽しい一年間でした。お忙しい中、原稿を寄せてくださいました皆様、そして、発行にあたりご尽力いただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(広報特別委員 M.N.)